

並の年より けいせい

年と共に人柄も変化する

年と共にその心も大きく その姿も

かわり 同し人と思えるく 年々 二とが

三年ほど前の十二月のさむい日

その姿 老えられぬい ほど 木口く 口

ておすわて柔

青年頃のころ 兼界のあか かれの的

同とんと 思える

若い時を知っていの人を おすわ

い ち ら び い

帰って行くに ち び ら く

そうだったのわいと 考えこんでし

並の年よりには 年々の

これほど ぶつ ち しい おか

く

何ま っ くり あり ち の 木 ち

せい ち くの けいせい

現在 何とも ち ち 年をと

二とを ち ち ち ち ち ち ち ち

二とだ

年をとって 若い時のうら

出来事のことわある はぐらしの材料を

さみして いさだ午に

若い時と 現在はずらう ても

並の年よりで いは ~~は~~ 年の何す

さむ月お ぶると え若い昔年を思ひ出し

私に 昔を 巨すわ ぶるお 年い びり

めい ^り身が ^いい を思ひあさ そろ

2025
4/23